

「主のみこころをよく悟る」エペソ5：17

2017・7・23

I 前の節→「機会を十分に生かして用いなさい（時を買い戻しなさい）。悪い時代だからです」：16。
悪い時代＝主のみこころ（主に喜ばれること：10）ではなく、自分達の悪い欲望の為に時を使い生きている時代。父なる神、そして子なる神イエスは、そんな悪に生きる私達を愛して、救いの手を差し伸べられた。

「キリストは、今の悪の世界から私達を救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによったのです」（ガラテヤ1：4）。

私たちの心は、罪の欲望のままに生きたいという心（「自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い」（エペソ2：3））であり、それに比べ、神のみこころは、私達を救いたいという心だったので。何という恵み！

II 「ですから、愚か（原語：分別のない）にならいで」。

神の時、機会、みこころを分別しない愚かにならないように。

III 「（アッラ：むしろ）主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい」

1. 「主」＝私達を愛して私達の為に自分を捨て（ガラテヤ2：20）、十字架で私達のすべての罪の刑罰を受け償いをし、私達を永遠の滅びから買い戻して（贖って）下さった救い主、神。その愛と救いを受け、心から感謝し、私達が自分を捨て自分の十字架を負って、信頼してついて行ける素晴らしいお方（マタイ16：24）。

2. 「みこころ」＝原語：セレーマ、意志、意向。主の御意志。主の喜ばれる事。10節。

3. 「よく悟りなさい」＝

①原語：現在形の命令形→悟り続けなさい。みこころを、その都度、事ごとに悟り続ける。

②意味：一緒に置く、一緒に捉え付ける、一緒に配置する。心の中で一緒に接合する、結合する、連結させる、合流する。理解する。一緒に並べる。まとめる→主のみこころを悟ることが、一瞬のことではなく、切り抜きパズルを一つ一つの出来事、状況の連結のもとで、主のみこころに到達して行く。

4. 主のみこころを悟るには。

①みことば。主のみことばは、主の御意志の現れ。明確なみこころの御言葉をしっかりつかみ、御言葉に記されていない具体的な事は、御言葉の原則をもとに、主の喜ばれる事を悟っていく。

ですから 66 巻の聖書の御言葉を読み味わい心に蓄える事は、主のみこころを悟る根本的な土台です。

明確なみこころ→「神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです」（Iヨハネ3：23）。

「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです」（Iテサロニケ4：3）。

他、聖書の一つ一つのみことばが、主のみこころを示して下さいます。私的解釈をしないように、御言葉を、文脈を大切に理解する事が大切。

②祈り。

i 「神よ。あなたのみこころを教えてください」と。祈り続ける私達に主は、主の方法で教えてください。

ii 深い主との交わり。

一方通行の祈りではなく、主の前に静まる。思い切って（この決断がないとできない）何かを削り、カットして主との時間を買戻し（時間を作り、聖別して＝時を神の為に振り分け）静かに主の前に身を置く。主の前に静まる事は、私達の人生の旅路に起こる、一見バラバラに見える出来事、事柄を神の下さる綴じ糸で、つながりのあるものとして見直していく事を助ける。

「悟る」の原語の意を参照。前記のⅢの3＝一緒に置く、配置する、心の中で一緒に連結させる。

iii ある時は、苦闘の祈りを通して、みこころを悟る。

「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。…わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください…三度の祈りをされた」（マタイ26：38、39、44）。

③主にある経験によって。

「堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物（主のみこころにかなう）と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です」（ヘブル5：14）。

主にあって経験する一つ一つ（自分の失敗も。失敗から学ぶことは多い）を通して、主は私達を訓練し、主のみこころにかなう事とそうでない事を見分ける感覚を与えて下さる。

④主の御支配の中にある私達の身に起こる一つ一つの出来事を心に納め、思い巡らし、結び付け見分ける。

ルカ2：19、51。

一つの出来事だけ、その一面だけで、みこころを判断しない。ある事とある事をつながり、前後関係、そして、これまでの人生全体の中での位置、意味を御言葉と共に見分けながら、主のみこころを悟っていく。すべての出来事には意味がある。神は色々な状況を通して、みこころを示される。

⑤神に自分を奉げ（ローマ12：1）、みこころに自分を合わせようとする心。

「神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえるために、心（原語：思い、分別）の一新によって自分を変えなさい（変えられ続けなさい）」ローマ12：2。

⑥主にある信頼出来る人、主に心を向けさせてくれる人に相談する。

⑦主から与えられた今なすべき事をしつつ、将来の導き、主のみこころの光を一步一步、照らしていただく。

IV主は、御心に従う人を祝福される。

「地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように」ルカ2：14。

「神の国とその義（みこころ）とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます」マタイ6：33